



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年11月8日

上場会社名 川澄化学工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7703 URL http://www.kawasumi.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 昌谷 良雄
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 請川 浩一 TEL 03-5769-2600
 四半期報告書提出予定日 2018年11月8日 配当支払開始予定日 2018年12月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	11,627	△7.5	62	△81.9	186	△58.2	△897	—
2018年3月期第2四半期	12,567	2.3	342	△40.0	444	△5.0	313	△50.7

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 △28百万円 (—%) 2018年3月期第2四半期 796百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	△41.75	—
2018年3月期第2四半期	14.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	45,039	38,408	84.3
2018年3月期	45,312	39,456	86.1

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 37,978百万円 2018年3月期 39,020百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
2019年3月期	—	7.50	—	—	—
2019年3月期（予想）	—	—	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,000	△9.6	△300	—	△200	—	△500	—	△23.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期2Q	22,948,003株	2018年3月期	22,948,003株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	2,332,593株	2018年3月期	1,132,552株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期2Q	21,507,247株	2018年3月期2Q	21,815,571株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項は添付資料の3ページをご覧ください

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は2018年5月15日開催の取締役会において、中期経営計画を策定するとともに企業価値向上に向けた収益力の強化と体質改善を目的として、構造改革の実施を決定しました。

< 構造改革の概要 >

1. 体外循環事業の見直し

(1) 不採算事業からの撤退

今後収益の改善が見込めない国内生産ダイアライザーの生産・販売、および血液浄化製品の自社国内販売から撤退します。これにともない、国内外の生産組織を見直し、配置転換等を含み国内で60名、海外で160名規模の人員の適正化を実施し、2020年3月期までに生産拠点を再編します。

(2) 営業拠点の統廃合

国内営業拠点を東京・大阪・福岡の3拠点に集約し、配置転換等を含む40名規模の人員適正化を実施し、2019年3月期に拠点を整理・統合します。また、2018年12月末にて海外販売子会社である、ナムシントレーディング（タイ）の事業終了を予定しております。

2. 血管内分野の拡大と新分野への進出

(1) 新製品による新たな収益基盤の確立

成長領域である血管内分野、そして新たな領域である消化器分野、癒着防止材の研究開発に資源を投入し、より付加価値の高い事業の基盤を確立します。また、2021年3月期に新研究開発拠点（神奈川県キングスカイフロント）を設置し、医療現場との距離を縮めるとともに、国内外の営業・製造拠点とのネットワークを強化します。

(2) グローバル展開の加速

海外において新製品をタイムリーに上市するため、体制を強化します。ステントグラフトの欧州での販売を拡大し、米国にて上市している製品の販売も拡大します。

3. 生産性の向上

(1) 業務の効率化

生産管理センターを設置し、国内外の生産を一元管理することによって管理人員の削減および業務の効率化を図ります。RPA（ロボットによる業務の自動化）を活用し、生産性向上を図ります。本社人員においては、2019年3月期に配置転換等を含む30名規模の人員適正化により、効率的なオペレーションを実施します。

(2) 働き方改革

従業員がもっと柔軟に働き、ワークライフバランスがとれるよう人事制度設計を改定します。果敢に挑戦出来る次期リーダーの育成と、生き活きと働ける人事・処遇制度の改革をおこないます。

当第2四半期累計期間におきましては、営業拠点の統廃合（国内8拠点を東京・大阪・福岡の3拠点に集約）が完了するとともに、国内の希望退職者の募集が完了いたしました。これにより、割増退職金や営業拠点閉鎖に係る費用が発生し、今後使用が見込まれない固定資産に係る減損損失等も含めて、当第2四半期連結累計期間において構造改革費用として1,440百万円を特別損失に計上しております。

また、新分野への進出として、2018年9月19日付で厚生労働省より、「川澄ダックビル胆管ステント」の製造販売承認を取得しました。

第3四半期以降も、不採算事業からの撤退や新製品による新たな収益基盤の確立等の中期経営計画における重点施策を推進し、企業価値向上に努めてまいります。

上記の構造改革の実施を含む、当第2四半期連結累計期間の経営成績については以下のとおりです。

< 売上高 >

売上高は、構造改革による撤退品（国内ダイアライザー、国内浄化自販製品<除く回路>、浄化装置等）や国内血液バッグ、生理食塩液等の販売が減少したことにより、前年同期に比べ9億40百万円減の116億27百万円（前年同期比7.5%減）となりました。国内・海外別の売上高につきましては、国内売上高は、前年同期に比べ11億3百万円減の76億96百万円（同12.5%減）、海外売上高は、前年同期に比べ1億63百万円増の39億30百万円（同4.3%増）となりました。

< 売上総利益・営業利益・経常利益 >

為替影響等により原価率が悪化したため、売上総利益は前年同期に比べ4億70百万円減の38億83百万円（同10.8%減）となりました。

販売費および一般管理費は、委託試験研究費等の研究開発費が増加したものの、人件費・運送費・販売手数料等の減少により、前年同期に比べ1億89百万円減の38億21百万円（同4.7%減）となりました。

これにより、営業利益は、前年同期に比べ2億80百万円減の62百万円(同81.9%減)となり、経常利益は、前年同期に比べ2億58百万円減の1億86百万円(同58.2%減)となりました。

<親会社株主に帰属する四半期純損益>

親会社株主に帰属する四半期純損益は、構造改革費用として14億40百万円の特別損失を計上したこと等により、前年同期に比べ12億11百万円減の△8億97百万円(前年同期は3億13百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①血液及び血管内関連

国内血液バッグ等の販売が減少したことにより、売上高は、前年同期に比べ3億81百万円減の52億46百万円(同6.8%減)となりました。セグメント利益は、前年同期に比べ2億75百万円減の11百万円(同95.9%減)となりました。

②体外循環関連

構造改革による撤退品(国内ダイアライザー、国内浄化自販製品<除く回路>、浄化装置等)や生理食塩液等の販売が減少したことにより、売上高は、前年同期に比べ5億58百万円減の63億80百万円(同8.1%減)となりました。セグメント利益は、前年同期に比べ5百万円減の50百万円(同9.3%減)となりました。

(2)財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ2億72百万円減の450億39百万円となりました。

流動資産は、主として受取手形及び売掛金の減少により、5億14百万円減の282億60百万円となりました。

固定資産は、主として投資有価証券の増加により、2億42百万円増の167億78百万円となりました。

流動負債は、主として未払費用の増加により、8億69百万円増の42億65百万円となりました。

固定負債は、主として繰延税金負債の減少により、94百万円減の23億65百万円となりました。

純資産は、主として利益剰余金の減少により、10億48百万円減の384億8百万円となりました。

これらの結果、自己資本比率は84.3%となり、前連結会計年度末と比べ、1.8%減となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前年同期に比べ8億3百万円増の163億47百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの内容は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ3億10百万円減の10億78百万円となりました。主な内容は、減価償却費の8億9百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ6億9百万円増の△3億38百万円となりました。主な内容は、有形固定資産の取得による支出の△3億25百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ8億7百万円減の△10億28百万円となりました。主な内容は、自己株式の増減額の△8億60百万円であります。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、(重要な後発事象)に記載のとおり、当社が保有する投資有価証券の一部を売却し、2019年3月期第3四半期において投資有価証券売却益を1,208百万円計上する見込みとなりました。これにより、2018年10月10日に通期の連結業績予想のうち、親会社株主に帰属する当期純利益を1,200百万円上方修正しております。なお、営業利益および経常利益につきましては、研究開発費等の経費の動向や為替の変動等の不確実な要素に鑑み、2018年10月10日に公表した連結業績予想から修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,668	16,549
受取手形及び売掛金	6,830	6,170
商品及び製品	2,770	2,941
仕掛品	687	715
原材料及び貯蔵品	1,450	1,376
その他	370	508
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	28,775	28,260
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,846	4,657
機械装置及び運搬具(純額)	2,481	2,278
その他(純額)	2,772	2,813
有形固定資産合計	10,100	9,750
無形固定資産	532	334
投資その他の資産		
投資有価証券	5,546	6,312
その他	381	404
貸倒引当金	△23	△23
投資その他の資産合計	5,903	6,693
固定資産合計	16,536	16,778
資産合計	45,312	45,039
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,588	1,431
未払法人税等	238	75
引当金	301	241
その他	1,267	2,517
流動負債合計	3,395	4,265
固定負債		
退職給付に係る負債	1,878	1,930
その他	580	434
固定負債合計	2,459	2,365
負債合計	5,855	6,630

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,642	6,642
資本剰余金	6,462	6,462
利益剰余金	25,291	24,230
自己株式	△1,056	△1,917
株主資本合計	37,339	35,417
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,688	2,229
為替換算調整勘定	62	395
退職給付に係る調整累計額	△70	△63
その他の包括利益累計額合計	1,680	2,561
非支配株主持分	436	429
純資産合計	39,456	38,408
負債純資産合計	45,312	45,039

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	12,567	11,627
売上原価	8,214	7,743
売上総利益	4,353	3,883
販売費及び一般管理費	4,011	3,821
営業利益	342	62
営業外収益		
受取利息	18	22
受取配当金	26	38
受取補償金	41	—
為替差益	—	44
作業くず売却収入	22	27
その他	12	6
営業外収益合計	122	138
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	16	—
持分法による投資損失	0	1
減価償却費	0	10
その他	1	1
営業外費用合計	20	14
経常利益	444	186
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	—	36
特別利益合計	0	36
特別損失		
固定資産除売却損	18	6
構造改革費用	—	1,440
特別損失合計	18	1,446
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	427	△1,223
法人税、住民税及び事業税	107	46
法人税等調整額	5	△378
法人税等合計	112	△332
四半期純利益又は四半期純損失(△)	314	△891
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	6
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	313	△897

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	314	△891
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	83	540
退職給付に係る調整額	3	6
為替換算調整勘定	394	315
その他の包括利益合計	481	862
四半期包括利益	796	△28
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	788	△23
非支配株主に係る四半期包括利益	7	△5

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	427	△1,223
減価償却費	833	809
減損損失	—	219
有形固定資産除売却損益(△は益)	17	6
引当金の増減額(△は減少)	△36	△60
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	64	39
受取利息及び受取配当金	△45	△60
支払利息	0	0
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△36
持分法による投資損益(△は益)	0	1
売上債権の増減額(△は増加)	△271	714
たな卸資産の増減額(△は増加)	△35	△63
仕入債務の増減額(△は減少)	△75	△186
その他	258	1,050
小計	1,138	1,210
利息及び配当金の受取額	67	64
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	183	△196
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,388	1,078
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△41
定期預金の払戻による収入	—	34
投資有価証券の取得による支出	△509	—
投資有価証券の売却による収入	—	48
有形固定資産の取得による支出	△420	△325
有形固定資産の売却による収入	2	3
無形固定資産の取得による支出	△21	△57
その他	1	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△948	△338
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の増減額(△は増加)	—	△860
配当金の支払額	△217	△163
非支配株主への配当金の支払額	△2	△1
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△0	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△221	△1,028
現金及び現金同等物に係る換算差額	144	170
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	363	△118
現金及び現金同等物の期首残高	15,180	16,465
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,544	16,347

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年8月9日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,200,000株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が860百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が1,917百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	血液及び血管 内関連	体外循環 関連	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
売上高					
外部顧客への売上高	5,628	6,939	12,567	—	12,567
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,628	6,939	12,567	—	12,567
セグメント利益	286	55	342	—	342

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	血液及び血管 内関連	体外循環 関連	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
売上高					
外部顧客への売上高	5,246	6,380	11,627	—	11,627
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,246	6,380	11,627	—	11,627
セグメント利益	11	50	62	—	62

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに配分していない全社資産において、219百万円の減損損失を計上しております。

(重要な後発事象)

当社は、2018年10月10日開催の経営会議において、当社が保有する投資有価証券の一部を売却することを決議し、2018年10月10日に売却いたしました。これにより、2019年3月期第3四半期連結累計期間において、投資有価証券売却益（特別利益）を計上いたします。

(1) 投資有価証券の売却理由

テルモ株式会社との間の業務資本提携を解消したため。

(2) 投資有価証券の売却の内容

①売却株式銘柄	テルモ株式会社
②売却日	2018年10月10日
③売却株式数	298,000株
④売却額	2,097百万円
⑤投資有価証券売却益	1,208百万円